

平成 18 年度事業報告

・事業概況

2006年(平成18年)度の日本経済は、2002年以降の長期景気回復傾向が続き、11月にいざなぎ景気を超えて戦後最長を記録した。景気は好調に推移したものの、依然として個人消費に改善が見られず個人所得は低迷している。ジュエリー産業は、景気の好転を期待しながらも明るさが見えない足踏み状態が続いた。昨年後半から大幅な値上がりをした金、プラチナの相場は、高止まりの状況が続いており、PT商品からK18WGへの移行が激しく需要の伸びは期待薄であった。一方、一昨年のダイヤモンドのスリーストーン、ブラウンダイヤモンドのような販売を牽引していくヒット商品が少なく、ジュエリーの需要は、全般的に低水準に留まった。2006年のジュエリーの小売市場規模は、ほぼ前年並みか、多少の伸びが予想される。

平成18年度の実業は、前年に引続き、消費者の「信頼」や「満足」を得る為に、種々の事業を展開した。消費者への正確な情報を提供するため、従来のホームページを抜本的に変え、11月から消費者向けを中心とした内容に切り替えた。消費者相談などによる具体例のQ&A、貴金属や宝石の解り易い説明など、正確な、新しい情報をホームページとして情報提供に努めた。

宝石の定義・命名法(改定)、貴金属表示など業界ルールの一層の推進等の遵守を図るとともに、引続き、ジャパンジュエリーフェア(JJF)、東京国際宝飾展(IJT)等の場で海外供給先に直接申し入れるなど、正確な情報開示を行うよう努めた。国際交流、啓発・普及の場として秋のJJF、春のIJTを位置付け、秋のJJFは、一般消費者にも自由に開放し、ジュエリーアワードの作品の発表・展示を行い、ジュエリーデーキャンペーンのイメージリーダーとして女優の田丸麻紀を起用、イヤーカー・ジュエリーの展示などを行った。

国際交流では、在日公館との緊密な連携が引続き行われた。CIBJO総会は、7月(バンクーバー)、3月(ケープタウン)に開催され、日本代表を派遣した。7月にオーストラリア大使館の要請により、黒蝶貝の説明会を開催。7月末から8月上旬にかけて、ロシア連邦アルロサ社モスクワ訪問団、10月中旬、南部アフリカ(南ア、ボツワナ)調査団など、会長を団長として訪問し交流を深めた。2月下旬には、タイ国への交渉団派遣によりブルーサファイアに関するタイ業界との情報開示に関わる合意が得られるなど成果を得た。

ダイヤモンド、プラチナ関係では、DTC、PGI、品位に関しては造幣局、鑑定・鑑別では中間法人宝石鑑別団体協議会などとの協力関係が図られた。宝石のサンプル調査、品位の調査等を行った。技術用語を主に長年検討してきたジュエリー用語事典を編纂、1月発刊となった。

JCは、引続き検定試験を実施し、一昨年導入した1級試験は、10月に新たに5名の有資格者が誕生した。1月のIJTの場で、JCの集いと1級資格者によるセミナーを開催した。

貴金属装身具の技能検定、10月の技能五輪全国大会には、引続き中央職業能力開発協会の要請に基づき全面的に協力、委員推薦など支援を行った。2007年ユニバーサル技能五輪への支援、委員等の推薦を行った。

消費者相談は、引続き専門相談員をにおいてジュエリーに関する相談・苦情の処理の斡旋を行った。

ＪＪＡ会館の建設は、協会運営に不可欠な事務所ビルとして８月に施工業者を指名し、１月地鎮祭を行い建築着工した。建設資金の一部として４月から寄付金を募集し、３月末に目標を達成した。

各事業

１．ジャパンジュエリーフェスティバル 2006

ジャパンジュエリーフェスティバルは、８月３１日（木）～９月２日（土）の３日間、東京ビッグサイト東展示棟４～６ホールで開催した。ジュエリーフェアの開催、イヤージュエリーの発表・展示、ジュエリーデザインアワードの表彰及び展示をＪＪＦ２００６の下で一体的に実施した。消費者の観覧を可能にした特別イベントゾーン内特設ステージにおいてＪＪＡジュエリーデザインアワードの表彰、イヤージュエリーの発表を行い、イヤージュエリー、ジュエリーアワードの入賞作品を展示した。

開会式には、ジュエリー生産国から各国大使が出席し、交流を深めた。来場者は１５，３９６名と前年を大幅に上回った。

（１）ジュエリーフェア 2006

今年のＪＪＦ（ジャパンジュエリーフェア）２００６はＣＭＰビジネスメディア株式会社との共同主催で、東京ビッグサイト東展示棟４～６ホールで行い４５１社（国内３６８社、海外８３社）が出展、来場者は前年に比べ４９％の伸びであった。ＪＪＡブースを設けＪＪＡ事業、役割などを展示パネルで紹介するとともにセミナー等を開催した。

（２）ジュエリーデーキャンペーン

イヤーカーストーンは「ホワイト＆ピンク」、テーマは“上品な愛らしさ”、キャッチコピーは「２００７年は、ジュエリーで愛を贈る」とし、キャンペーン活動を行なった。またジュエリーデーの認知を広めるため、「ジュエリーデーの標語一般公募企画」「新聞社、雑誌社とのタイアップによるプレゼントパブリシティ企画」、「応募ハガキを小売店に配布して行なうプレゼントクイズ企画」の３つの企画を実施した。

（３）ジュエリーデザインアワード

今年は第１部門はパーティーシーン、第２部門はカジュアルシーン、第３部門はクラフト＆ギフト、新人部門の第４部門はフリーマテリアルとし、全国から６４８作品が集まった。グランプリ・経済産業大臣賞、厚生労働大臣賞を含む１０１点の入賞作品が選ばれた。特別イベントゾーンにおいて表彰式等を行い、一般消費者に開放した。

２．第１８回国際宝飾展（ＩＪＴ）

リードエグジビションジャパン株式会社と共同主催のＩＪＴ２００７は、東京ビッグサイト東展示棟全館を使い、平成１９年１月２４日（水）～２７日（土）の４日間開催した。参加国３５国・地域、出展社数１，６５０社、来場者数３８，３５８名にのぼった。ＪＪＡでは、第１回ジュエリーコーディネーター検定１級試験合格者（有資格登録者）３名を招き「ジュエリーコーディネーターに何を求められているか」をテ

ーマにパネルディスカッションを開催、多くの参加者が集まった。ブースを設けJJAの事業や役割をパネル展示し、セミナー等を実施した。

3. 香港インターナショナルジュエリーショー参加

香港貿易発展局(TDC)主催の香港インターナショナルジュエリーショーは、香港コンベンションセンターで平成19年3月6日(火)~3月10日(土)の会期で開催され、TDCの協力・支援によりJJAブースを設けると共にJJAパビリオンには8社出展した。バイイングミッションに14名が参加した。JJAジュエリーデザインアワード2006受賞作品10点が香港ジュエリーコンペ作品、オーストラリアジュエリーデザインアワード作品、国際南洋真珠ジュエリーデザインコンペ作品と一緒に会場に展示披露された。

4. ジュエリーコーディネーター

8月23日(水)に東京、名古屋、大阪、福岡で、JC1級1次及び2・3級の検定試験を実施した。また、1級2次を10月25日に東京で、3級については平成19年3月11日(日)にも東京、大阪で実施した。1級1次試験は受験者31名中6名が合格、2次試験合格者は、前年度1次試験合格者16名を加え22名が受験、合格者は5名、2級資格検定は、受験者368名中147名が合格した。3級資格検定は8月、3月合計で2,408名が受験し1,512名が合格した。3月末現在の資格登録者数は1級8名、2級721名、3級7,200名で合計7,929名である。

5. 宝石関連関連

(1) GIAカットグレーディング・フォローアップ

ダイヤモンドのカットは輝きに影響を与える重要な要素であり、このシステムの移行が大きな混乱を起こさないためにAGL(中間法人宝石鑑別団体協議会)と協力して全国説明会を行なった。

(2) HPHT, 合成ダイヤモンド調査

対AGLグレーディング調査の為の資料としてHPHT処理ダイヤモンドを3ピース購入し、天然ダイヤモンド、無色合成ダイヤモンドを混ぜソーティング依頼し調査を実施した。

(3) コンフリクトダイヤモンド対策関連

映画「ブラッドダイヤモンド」公開を控え、人権擁護団体等の動きが懸念される中、正確な情報提供をホームページに掲載した。

(4) タイ国から輸入されたブルーサファイヤに、開示されずにベリリウム拡散処理されたものがあり、今後処理内容を的確な文言でインボイスに明示するようタイ国内業界団体との交渉のため、2月にJJA代表団を派遣、裸石については合意を得た。

6. 国際交流関係

(1) CIBJO総会2006(カナダ・バンクーバー)への参加、7月22日~27日 CIBJO Blue Bookの承認

天然と合成のダイヤモンドのグレーディングについて
貴金属ミッションにゴールドとプラチナが追加された

(2) スリランカGem Authorityのハシタ会長表敬訪問、1月25日

(3) CIBJO総会2007(南アフリカ・ケープタウン)への参加、3月11日～15日

CIBJO Blue BookのISO化について

貴金属Blue Bookの新規追加

カラーストーンの加工処理簡易表記の提案

(4) ロシア(モスクワ)アルロサ社訪問視察団

(5) 南アフリカ、ボツワナ視察訪問団

7. 消費者関連事業

(1) 消費者相談窓口として消費生活アドバイザー有資格者専任スタッフによるJJAお客様相談室を開設し、相談内容の把握とクレーム未然防止のためのデータ集計を始めた。

(2) JJAホームページを抜本的に見直し、消費者向けを第一義としてジュエリーについてのわかり易い説明、苦情相談のQ&A、賢い買い方や頻度の高い相談内容などの事例を掲載した。

(3) 消費者信頼を得るため「JJA信頼マーク(仮称)」の導入を検討。

8. 流通関連

「加工委託基本契約書」「担保特約」など従来から作成してきた基本モデルの普及のため、JJA JF会場で配布した。流通段階での情報開示のあり方について検討した。

9. 品位マーク関連

消費者への信頼、正確な情報提供のため品位マークの普及と品位の検証をサンプル調査として社団法人宝石貴金属協会に依頼検査を実施した。検査結果は良好であった。

10. 技術関連

(1) 中央職業能力開発協会が実施する貴金属装身具製作技能検定(1級及び2級)では、JJA推薦の中央検定委員6名が試験問題作成や円滑な実施のために協力し、受検者の技能向上に資した。同試験には全国都道府県から103名が受験し、1級17名、2級27名が合格した。平成17年度技能検定学科問題の解説集を編集、発行し受検者に配布した。

(2) 中央職業能力開発協会主催の技能五輪全国大会は、香川県高松市で10月22日から4日間行なわれ、JJAから運営委員、競技委員を推薦派遣し、円滑な競技実施に協力した。競技は13名の選手によって行なわれ、今回は優勝・2・3位共東京の選手となった。優勝者は平成19年11月に静岡県で開催予定の国際大会に出場することになる。

(3) 高松市で開催された独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構及び香川県主催の第29回アビリンピック貴金属装身具製作部門に、2名の選手が参加した。共に技術的に優秀と認められ、平成19年11月の国際技能アビリンピックの日本代表選手に選考され、健闘が期待されている。JJA推薦の運営委員、競技委員2名が実施に協力した。

(4) 中央職業能力開発協会と全国技能士連合会の主催の技能グランプリが千葉県で開催され、参加選手は全国から過去最も多い17名で、レベルの高い競技が行なわれた。JJA推薦の運営委員、競技委員3名、補佐委員2名が競技の実施に当たった。

(5) 消費者相談から依頼のあった製作技術上の問題につき、その都度適切なアドバイスや

回答を行い、クレーム問題の解決及び予防に努めた。また、JJAのホームページの全面改訂に際し消費者相談の過去事例に基づき製造、技術、貴金属素材関係の正確な回答を起稿掲載し、消費者ならびに業界に情報の提供を行なった。

- (6) ジュエリー製作及び素材等を主題とした「ジュエリー用語辞典(グリーンブック)」を発行した。

11. 調査広報関連

- (1) JJAレポートは年4回(第63号~66号)を発行した。DIに基づく四半期ごとの業況調査は年4回(第23回~26回)実施した。また、2006年のジュエリー小売市場動向調査(年1回)は、アンケートの内容案の検討を行い、小売店に送付した。

- (2) JJAホームページのリニューアル

消費者にジュエリーに関する正しい知識をもってもらい、ジュエリー産業に対して信頼と安心を抱いてもらうため、内容を大幅に改訂し充実化させた。掲載情報は「会員向け」と「消費者向け」に分割管理している。

12. その他

- (1) 前年度に策定したジュエリー会館の建設計画に基づき、会館の用途は、協会運営に不可欠な事務所ビル(鉄筋コンクリート造陸屋根地上3階建て、施工床面積185坪)とし、8月設計・施工業者の競争入札により決定した。1月26日(金)地鎮祭を行い建築着工した。建築資金の不足額については、寄付金で対応することになり、全会員を対象に4月から寄付金募集を行い、3月末までに目標額(5千万円)を達成した。

- (2) 経済産業省より「犯罪収益流通防止法(仮称)」に対し、委員会を設置して宝石商の実態調査等の委託要請があったことで、次の活動を実施した。本委員会に係る3月末までの経費は、委託費として認められた。

- ・ ジュエリー産業の実態に関する調査のアンケート内容の検討と実施
- ・ アンケート集計結果に基づく取引実態の分析
- ・ 疑わしき取引の報告スキームの検討
- ・ 業界、消費者への啓蒙方法の検討
- ・ 業界向けマニュアル(案)の作成
- ・ 消費者向けパンフレット(案)の作成

- (3) 理事会の内容を要約して会員にFAX送信したほか、日本宝飾記者会との定例記者会議を9回開催し、理事会の内容報告を主に正確な情報公開に努めた。また第18回通常総会后、報告会を実施した。

- (4) 2007年11月に開催される2007年ユニバーサル技能五輪国際大会(開催地:静岡県)に対し、大会日本組織委員会(会長 御手洗 富士夫)より寄付金の要請を受け、10万円の寄付を行った。